

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年9月）の予測

発表日：2012年10月30日（火）

～基調判断は「局面変化」に下方修正。10月分では「悪化」へと2ヶ月連続下方修正の見込み～

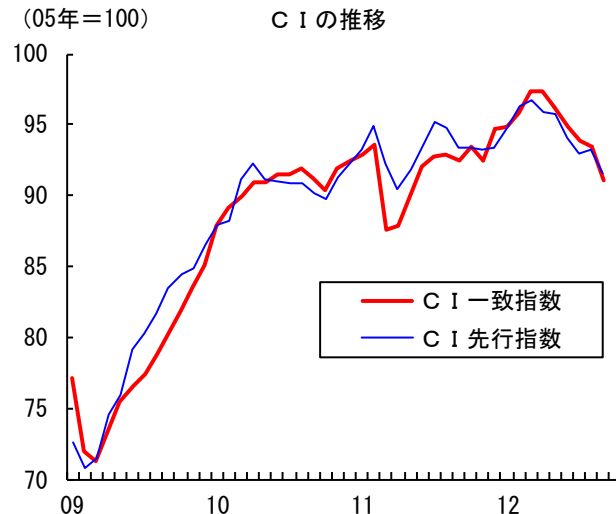
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から11月6日に公表される2012年9月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲2.4ポイントが予想される。これで6ヶ月連続の低下であり、低下幅も非常に大きい。景気が足元で落ち込んでいることが改めて確認されるだろう。9月は全般的に低調であり、採用系列の大半がマイナス寄与になる見込みだ¹。

C I先行指数も前月差▲1.5ポイントの低下が予想される²。在庫関連の系列のマイナス寄与が大きく、先行きの在庫調整リスクが懸念される状況である。

こうした落ち込みの結果、内閣府によるC I一致指数の基調判断は、8月までの「足踏み」から、9月には「下方への局面変化」に下方修正されるとみられる。また、やや気が早いですが、10月の生産予測指数が悪化を示していることから判断すると、10月分の景気動向指数では基調判断が2ヶ月連続で下方修正され、「悪化」の判断が示される可能性が高い³。

内閣府の定義では、「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す」、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを示す」とされている。実際、一定の仮定を置いてヒストリカルD Iを試算すると、4月以降50%を割り込んでいることが確認できる。3月をピークとして景気は後退局面に入っている可能性が高い。



(注)直近の2012年9月は第一生命経済研究所による予測値

- 1 現時点で未公表である所定外労働時間については仮置きした。
- 2 現時点で未公表である新設住宅着工床面積については仮置きした。
- 3 「局面変化」への下方修正の基準は「7ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」、「悪化」への下方修正の基準は「3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降した場合」である。「局面変化」の基準は9月に満たす見込み。また、10月分で僅かでもC I一致指数がマイナスになれば「悪化」の基準を満たすことになる。